

令和6年度 第1回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

1 日 時 令和6年7月30日（火）18：30～20：00

2 会 場 帯広市役所 10階 第6会議室

3 出席委員 柴山 敬、山田 知史、矢野 充、鳴海 亮、池田 健一、岸田 智子、
野村 勇、野原 一行、久保田 博己、角田 征男、三浦 真希子、
廣瀬 有紀、小沢 俊幸、佐藤 康則

（以上14名、敬称略）

4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化課長 天池 文彦、生涯学習文化
課課長補佐 米通 朋樹、生涯学習文化課生涯学習係主任 加藤 主夫、生
涯学習文化課生涯学習係主任補 中橋 一平

（以上5名）

5 会議次第

（1）委嘱状交付

（2）挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 村木 章純

（3）異動者紹介

（4）議事

① 協議事項 今期の調査・研究について

② 報告事項

（5）閉会

6 議事要旨

（1）協議事項 今期の調査・研究について

○事務局

前回までの会議において、今期の調査内容について議論し、調査ごとに、皆さんから意見・考察等を頂戴して、毎回まとめる形となった。

前回会議において皆さんから出された調査研究先の案をまとめたが、『公共施設』として百年記念館や一度も足を踏み入れたことのない施設に行くのはどうか、との意見があった。

また他自治体と比較した場合の、帯広市における博物館、美術館等の社会教育施設の数について話題となったところ。このため、文部科学省による令和3年度社会教育調査をもとに、人口あたり施設数を順位付けしてまとめた。施設数が自治体間で同じであっても、人口が少ない自治体が上位にくることになり、結論から言うと、施設数によって単純にそれが不足しているかの評価は難しい。

『公共サービス』として、AI等を活用した住民からの意見聴取システムの構築についても案が挙げられたが、インフラに類する調査研究をこの場において取り扱うのは難しいと判断した。

『活性化・活動者』としては、ご当地キャラクターや観光とまちづくりの関係が話題となった。話題となったアイヌ古式舞踊の観光コンテンツ化については、アドベンチャートラベルとしての取り組みについて今回紹介する。

『地域形成・交流』としては、町内会における特色ある取り組みと若年層の捉え方、地域の高齢者の生きがいづくり、こどもを対象とした社会教育活動、世代間交流の取り組みについて調査したいという声があった。

これらをもとに、案としてお示しする。

『公共施設』については、百年記念館や、今年児童会館が開館60周年を迎えるということで、周年事業を実施するところであり、これらの視察やヒアリングをする案。

『地域形成・交流』については、町内会の担当課に確認したところ、朝食会や運動会を実施している町内会があるほか、町内会長向けに回覧板アプリの導入について紹介すると聞いた。また、委員皆さんの周囲の若年層に、町内会についての捉え方を調査するというのはどうか。社会教育における現在のテーマは「Well-being」、つまり「幸せ」であるが、海外の研究によると、コミュニティと繋がっている人は「幸せ」を感じる傾向があるとのことで、社会教育において地域コミュニティを取り扱う理由である。

高齢者の生きがいづくりとしては、帯広市高齢者学級における生涯学習や、生涯学習委員の取り組みの調査。生涯学習推進委員については、高齢者に限らず、子ども向けの取り組みについても実施されている。

世代間交流については、帯広青年会議所における高校生によるまちづくりの講演への参加や、こども食堂など。

『活性化・活動者』については、活動者からのヒアリングや、アイヌ文化体験にかかるヒアリング。

以上について案を挙げさせていただいたが、このほかにも案があれば伺いたいところ。社会教育委員会議において取り扱うものとして、社会教育行政と、委員各位の社会教育活動への寄与について考慮いただく必要がある。

調査研究の仕方としては、視察・調査後に、皆さんから「学び」「気付き」「活かしたい」などを聴取し、とりまとめたいて考えている。

○委員

若い人たち、高校生の取り組みについて興味がある。高校生が実際何を考えているのか、どういうまちづくりをしたいのか、ということをやっているのであれば、話を聞いてこちらから問いかけるというのが、これらかの社会教育行政への寄与になると思う。

駅前の LAND においては、面白い取り組みをされている。

○委員

個人事業主さんが集う場であったり、大学生が地域にないものや、あるもののブラッシュアップについてプレゼンされたりという場でもある。

○事務局

施設の説明はできると思うし、何かイベントをやっているときに伺うこともできると思う。

○委員

時間帯的に集えない場合であっても、zoom 等オンラインで参加する取り組みもされている。

○委員

現役の高校生や大学生が地域の方々と話をしている場。

○事務局

何かイベントを実施されているときに、全員もしくは人数を絞って、参加しても支障ないか確認する。

○委員

大空地区に新たに設置された義務教育学校について、その狙いや機能を市民にアピールしても良いと思う。社会教育委員の皆さんでお邪魔することはできるか。施設以外にも、教育内容なども見せていただければと思う。

○委員

学校と地域との関わりという視点で調査するのは良いかもしれない。

○委員

大空学園がほかの学校と違う点、メリット・デメリットについて知りたい。

○委員

小学校と中学校の垣根を取って、1～9年生を取り扱っている。また一般的に中学校から教科担任制となるが、大空学園の場合、5年生から導入し、異学年の交流を含めて、小学校と中学校の良い所を取り入れている。また、小規模校であれば、もともと複式学級として行っていたところが義務教育学校になる事例はあるが、大空学園の規模というのは、全道的に珍しいと思う。

○委員

PTA は一緒なのか。

○委員

一緒だったかと思う。

○委員

メリットとしては、9年間の教育課程の中で柔軟な対応ができることが挙げられる。例えば語学の勉強などもうまくカリキュラムに組み込みながら、緩やかに中学校の課程に移行できるような仕組みが作られている。

また、キャリア教育の中で、地域の企業との繋がりにより特色ある取組みをやっていると聞いている。

○委員

高校でも探求の授業において、地域の方々が先生をやってくれていると伺ったが。

○委員

芽室にも企業がたくさんある中、1学年から探求学習を入れようということで、生徒が企業に訪問後、パワーポイント等に所管をまとめ、それをまた企業の方の前で発表する取り組みを行っていた。受け身ではなく主体的に学んでいくということを出発点にしていた。

○委員

今、大空地区で家を建てる若者が増えている。学校や町内会との関わりから、見えてくるものがあるかもしれない。

町内会の話では、廃止となった町内会もある中、再編の時期に来ていると思う。花見をしても老人会の方ばかりで、若者の会員が減っている。そういった意味で、大空地区において町内会と学校の関わりなども聞いてみたい。

○事務局

大空地区の町内会において、特色ある取組みが行われているかにもよる。

大空学園の話では、キャリア教育等により地域との関係はあれども、主体は地域よりも学校側にあり、社会教育より学校教育の分野だと思われる。

義務教育学校であるからこそ地域との関わり方が違うのであれば、聞いてみたい。

○委員

大空地区で十勝バスがまちづくりの取り組みをしていると新聞記事で見た。

○委員

地域の交流スペースであったり、食品の販売であったり、今後も様々な構想があると思う。地域でも若者がなかなかいないといった中で、こういった仕掛けやツールがあるというのは面白いと思う。

○委員

帯広市で、緑ヶ丘公園についてのアンケートを行っていて、活用策について問われている。広いグリーンパークが活用されているところをあまり見たことがなく、もったいないと感じている。

○委員

サッカーの誘致のために芝を張った経過がある。

○委員

最近だと、グリーンステージで高校生が野外ライブを行うということが話題になった。先日には旧長崎屋の中でキックオフイベントを実施するなど、活発に活動されている。

○委員

高校生が自らアンケートを周辺住民に配った。こうした取り組みも素晴らしい。地域との関わりという点ではどうか。

○事務局

地域へアンケートを配り徴取した＝地域と高校生が関わりを持っているかというところ、難しいところ。グリーンステージの在り方が変わりそうだ、という話ではあるかもしれない。

○委員

アンケートには、少年院の跡地についての設問もあり、私たちが回答したことがどのように反映されるのかと思っていたところ。

○事務局

公園の魅力アップを目的としたアンケートで、現時点では決定していることはない。

一部アンケート結果が出ているところで、「少年院跡地を子どものために使いたい」といった意見が比較的多いようだ。また、公園内にある社会教育施設が老朽化しており、その在り方も合わせて考えているところ。

今回いただいた意見をもとに、次回の視察先を事務局において整理し、お知らせする。

(2) 報告事項

研修会への出席等について報告。

〈意見・質問なし〉

以上